

2月15日付けの新聞に学習指導要領改訂案の記事が載りました。改定のポイントは、「主体的・対話的で深い学び」（子ども達が自ら、討論や意見発表しながら深く学んでいく授業）の導入です。

まさに、錦丘中高が開校当初から特色としてきた学びと同じであると感じました。そこで今回は、本校における「主体的・対話的で深い学び」についてご紹介します。

まずは、国語です。物語「走れメロス」の魅力について、1つのグループが発表した考えに対して、他のグループの生徒が質問したり、別の考えを発表し合ったりしながら全体で魅力を探っていきます。

教師は大事な考えをまとめたり、生徒が気付かない視点について考えさせたりしながら理解を深めます。



次は、数学です。図形の問題をグループ解決しています。先にできた人が解き方を教えてしまうのではなく、分からない人の疑問に答えていくことが大切です。疑問に答えることで、できた人も考えが整理され、相互に理解が深まります。

教師は各グループの状況に合わせてアドバイスをしたり、グループだけで解決できない場合は全体で解決できるよう働きかけます。



最後は社会です。「小さな政府か大きな政府か、自分が首相だったらどちらを選ぶか」という正解のない問題を討論しています。

狙いは、自分が見つけた資料と学習したことを根拠として意見をまとめること、他の意見を聞いて自分の考えを進化させることです。

教師は、生徒の意見を評価したり、討論の視点が明確になるよう助言します。



これらの授業では、教師の一斉指導をできるだけ少なくします。もちろん、教師がリードし基礎・基本を確実に習得させる授業も大切にしています。各教科等でバランスよく計画を立て、社会の変化に柔軟に対応できる学力を育てています。